

1. 病院薬剤師の勤務実態調査の概要

(1) 調査の目的

調査の目的

背景

- 平成31年3月に取りまとめられた「医師の働き方改革に関する検討会 報告書」において、医師の労働時間短縮を強力に進めていくための具体的方向性の一つとしてタスク・シフト/シェアが掲げられており、医師の時間外労働の上限規制が適応される令和6年4月に向けて、医師の労働時間の短縮を進めるため、医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアを早急に進める必要がある。
- このような背景から、「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」における議論を踏まえ、「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」（令和3年9月30日医政局長通知）が発出された。
- 病院薬剤師が薬剤の専門家として薬物療法のプロトコル策定、医師への処方提案等のタスク・シフト/シェアの取組は、薬物療法の有効性・安全性の向上、医師の業務負担軽減に寄与している。
- これらの取組を普及・推進するためには、医療機関における意識改革・啓発や体制の整備が課題とされている。厚生労働省において、令和2年度より、病院薬剤師のタスク・シフト/シェアにかかる取組を収集し、研修等を通じて全国に共有することにより、医師の働き方改革の推進を図る事業を実施している。
- 薬剤師の勤務先は多岐にわたることや地域偏在があり、病院を中心として薬剤師が充足しておらず、病院薬剤師の確保は喫緊の課題であると指摘されている。

目的

- 患者に対してより質の高い薬物療法を提供するためには、病院薬剤師が専門性を最大限に発揮し『薬剤療法のマネジメント』の役割によりフォーカスすることが必要と考えられ、その環境を整えるためには、病院薬剤師業務について調剤機器やICT活用等による効率化・標準化や、他職種へのタスク・シェアを適切に進める必要がある。
- 本調査は、①病院薬剤師の業務実態を可視化・定量化し、現状課題の抽出・論点整理等を行う（基礎データ）、②薬剤師の偏在解消に向けた基礎データとして病院薬剤師確保推進策に活用する、③病院薬剤師の評価に活用する、④調剤機器・ICT活用・タスク・シェアも含め業務の効率化・標準化を示すことより、更なる医療安全の確保や質の高い薬物療法の提供を図ることを目的とする。

(2) 調査の実施概要

調査の概要

- 本調査は、回答結果の網羅性及び回答内容の詳細性を踏まえて、以下2通りの方法にて実施した。

自計式調査

- 記録方法
 - 薬剤師本人が15分単位で業務区分に応じて記録
- 調査対象
 - 全国の病院（約8,194施設※1）
 - 全国の病院薬剤師（約55,948人※2）
- 業務区分
 - 厚生労働科学研究費補助金「病院における薬剤師の働き方の実態を踏まえた生産性の向上と薬剤師業務のあり方に関する研究」その他の文献等を参考に分類
- 調査時間
 - 7日間×24時間

他計式調査

- 記録方法
 - 調査員が1分単位で薬剤師の業務内容を記録
- 調査対象
 - 自計式調査の回答状況を踏まえて、300床以下の中小病院を主な対象とし、対象施設は日本病院薬剤師会・各病院団体から推薦頂いた上で決定する。
- 業務区分
 - 自計式調査の業務項目を基とし、より詳細に業務内容を分類
- 調査時間
 - 1日間×24時間

※1：厚生労働省「令和2年（2020年）医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」における病院に従事する薬剤師数

※2：厚生局の保険医療機関の指定一覧より病院を対象